

発掘新聞

3月9日号

平成25年復活第5号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

【お知らせ】
収蔵品オンデマ
ンド、土日祝日
10:00~16:00、当館
第4展示室奥にて好
評実施中

そんなに出なくてもいい

ほとんど地山がない、担当者の悲鳴！ 豊前市塔田琵琶

田遺跡5次調査で非常に高密度の竪穴住居群の調査中



密集する竪穴住居群の調査状況＝豊前市塔田琵琶田遺跡5次調査

本誌でもたびたび登場している、今一部で話題の豊前市塔田琵琶田遺跡で、非常に高密度の竪穴住居群を検出・調査している状況を今回はレポートする。

その現場は、当館の大庭孝夫主任技師が担当する塔田琵琶田遺跡5次調査区である。約1000㎡余りの範囲から古墳時代の竪穴住居跡が60棟以上重複した状況で検出され、苦悩しながら大庭主任技師が調査に挑んでいる。

一般的に古墳時代の竪穴住居は、穴を掘って造っているため、その耐用年数は10年程度とされている。そのため、竪穴住居は頻りに建て替えられたと考え



重複する四角い区画が竪穴住居跡です

られており、結果的に竪穴住居は著しく集中する場合があるが、今回の塔田琵琶田遺跡のような竪穴住居の集中状況は非常に珍しい。

このように集中する竪穴状居跡の発掘調査では、一番新しく造られた竪穴住居の下層に古い竪穴住居跡があるため、同じ場所も何回も掘削し、図面・写真をとる作業が必要で、また竪穴住居に伴う柱穴や土器などの遺物も上層の竪穴住居のものとは混じらないように、常に注意しつつ慎重に行う必要がある。さらに今回の調査では調査のめどである3月末まで時間がないので、発掘作業員も増員し、慎重かつスピーディーに行っている。

詳細な成果については今後紹介します。ご期待ください。

(大庭孝夫記者)

●今号の「人」
“ウチノ”ミクスで発掘現場も順調！

内野陽子さん(発掘作業員)

上記で紹介している、現在発掘中の豊前市塔田琵琶田遺跡5次調査で遺構実測を中心とした発掘調査業務に従事しています。

発掘調査にかかわって約18年たち、これまでほとんどの九州歴史資料館発掘調査担当職員と一緒に現場を歩きました。

業務の中心である遺構実測作業は壊れてしまう遺跡の重要な記録なので、常に緊張感を持って実測しています。

現在作業中の塔田琵琶田遺跡ではたくさんの竪穴住居跡が検出されていますので、黒・赤・青鉛筆を持って、色を変えながら同じ場所を何回も図面をとる毎日ですが、がんばっています。



遺構実測を行う内野陽子さん

(顔出しNG)